



まほろばの丘から



令和4年8月25日 文責 校長 江口 尋信

新聞記事「スマホ利用度 学力に影響」から

7月末、4月19日に実施された全国学力・学習状況調査の結果が公開されました。本校のテスト結果につきましては「学校だより D-West」にて報告しますので、そちらをご覧ください。この調査の主たる目的は、結果に基づいた教師の指導方法の改善です。結果について一喜一憂するのではなく、子どもたちの力を伸ばすために日々の授業改善を図っていきたくと考えています。

さて、7月29日の西日本新聞に「スマホ利用度 学力に影響」という記事が掲載されました。少し長くなりますが、一部を引用します。

小6の半数、中3の7割以上がスマートフォンで交流サイト（SNS）や動画視聴を1日1時間以上やっている。全国学力テストの児童生徒アンケートでこんな結果が出た。時間が長いほどテストの平均正答率が低い傾向も判明した。

月曜から金曜に1日当たりどれくらい携帯電話やスマホでSNSや動画視聴をするかを初めて質問。1時間以上と回答したのは、小6が50.6%、中3が75.6%だった。

内訳は、「4時間以上」が小6は10.9%、中3が15.4%、「3時間以上4時間より少ない」は8.8%と13.8%、「2時間以上3時間より少ない」は12.8%と22.5%、「1時間以上2時間より少ない」が18.1%と23.9%だった。「携帯電話やスマホを持っていない」は小6が20.8%、中3は5.2%。

利用時間と各教科の平均正答率を分析したところ、小6の国語、算数・数学、理科の全てで「30分より少ない」が最も高かった。時間が長くなるほど正答率が下がり、「4時間以上」は全てで最低だった。

文部科学省の担当者は「スマホなどの利用時間が長いと学習時間に影響する。生活習慣が学力に関係している」と話した。

※ 下線は校長

わたしはこの記事に大変驚きました。思った以上にSNSや動画視聴時間が長かったからです。調査は「月曜から金曜」で、いわゆる平日について尋ねています。「1日4時間以上」と回答した児童・生徒は、帰宅後ほとんどの時間をスマホと向き合っていることになり、就寝時間もかなり遅いのではないかと危惧されます。

スマホでSNSや動画視聴を長時間おこなうことの問題は、成績が悪くなることではありません。生活リズムが乱れること、それに伴って集中力や物事に取り組む意欲が削がれていってしまうことではないでしょうか。成績が振るわないのは、あくまでもその結果の一つです。

スマホは便利であり、今の時代に使わないということは現実的ではないでしょう。しかし、発達途上にある子どもたちですから、どうスマホと付き合っていくかを指導していきたいものです。

道具（ツール）によってどう豊かに生きていくかということを考えていきたいものです。